

# 高齢者施設等における食を中心とした ボランティア

学科・専攻  
福祉栄養学科  
担当教員  
澤田崇子、有泉みずほ

連携先：  
柏原市・八尾市等の高齢者施設（令和7年度は  
柏原市・東大阪市・太子町の高齢者施設で連携）

## プログラム内容

柏原市・八尾市等の高齢者施設の入所者やその家族に対して、学生が食を中心とした支援を通して、地域の福祉施設のニーズに貢献するとともに、学生自身も高齢者の実態や高齢者施設の役割を知り、今後の学びに活かすことを目的とします。令和7年度の具体的な活動内容は、①高齢者施設でのおやつレクやレクリエーションの手伝い等を通して、要支援・要介護者の方々の食事支援や介助の支援、②施設行事の食事で利用できるメッセージカードや食育だよりの作成を行いました。

## 成果・考察

当該プログラムは、管理栄養士養成課程の学生にとって、3年から開始される学外実習を高齢者施設で行う機会があるため、事前にボランティアに参加することで円滑に実習が出来ることを期待しています。さらに高齢者施設での要支援・要介護者や施設スタッフとのふれあいの中で、栄養士専門職としての学びやコミュニケーション能力の重要性に気付くことができます。①については、「夏祭り」「秋祭り」「おやつレク」の企画などに2~4年生、延43名が参加しました。どの活動も、ほとんどの学生が、初めて高齢者施設に伺い、祖父母以外の高齢者と初めて会話をするため、コミュニケーションの取り方を、どのようにすれば良いかを戸惑いながらも一生懸命考えながら行っていました。体験後の振り返りには、「会話が続かないこともあったが、積極的に会話を続けるようにしたり、複数回参加することで、徐々に会話が続くようになった。」などのコメントがありました。②については3年生、10名が参加して、施設で実施される令和7年クリスマス会用のメッセージカードと、令和8年1-9月の食育だより作成（主に奇数月）を行い、施設に届けました。どちらも、高齢者に喜ばれる内容、見やすさ、季節感、提供する意義、作業効率などを考えて行いました。施設スタッフからは、「いつも素敵なメッセージカードをありがとうございます。」「食育だよりは見やすく綺麗です。楽しく読ませてもらっています。」との感想がありました。「春夏秋冬」での食育だよりや行事に特化した食育だよりなどの要望もありました。このような高齢者施設との交流を通して、施設スタッフや利用者様の「なまの声」を伺うことが学生の学びの一助になると期待できます。



福祉栄養学科  
教授 澤田崇子

高齢者施設での「夏祭り・秋祭り」「おやつレク」企画への参加が出来ました。延43名の学生が参加し、なかには複数回の参加もありました。利用者の方と対面で接する機会に恵まれ、工夫をしながらコミュニケーションを取っていました。1回めよりも2回めで上手に対応でき、喜びを感じている学生もいました。このプログラムが、人生の先輩である利用者様から多くの学びを得る機会になればと願います。



福祉栄養学科  
2年 石川愛彩 さん

私は特別養護老人ホームにおやつレクやレクリエーションの手伝いに参加しました。利用者様とお話を通して、利用者様の若いころのお話を聞かせていただき面白く感じました。何度も同じ話を繰り返し話されるので毎回同じリアクションを取るのが大事だと思いました。また声の大きさを考えて話をするのも大切だと感じました。楽しいひとときでした。